

さかき



開通前



3月定例会

- ・令和6年度予算
新複合施設基本設計、坂城テクノセンターZEB化支援など… 2ページ
- ・予算審査 委員長報告 …………… 4ページ
- ・ここが聞きたい! 一般質問10名 …………… 10ページ

ZEB※化支援など

※「ZEB」とはZero Energy Buildingの頭文字で、快適な室内環境を維持しながら、建物で消費する一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した業務用の建物のこと。

3月定例会 予算議会

108億9671万円

令和6年第1回定例会は2月29日に開会され、専決処分の承認のほか、令和6年度の一般会計予算をはじめ各特別会計予算、公営企業会計予算、条例案、工事変更請負契約の締結及び令和5年度補正予算等を原案のとおり可決し、21日に閉会した。一般質問には、10名が登壇した。

一般会計
68億1000万円
(対前年度7.1%増)

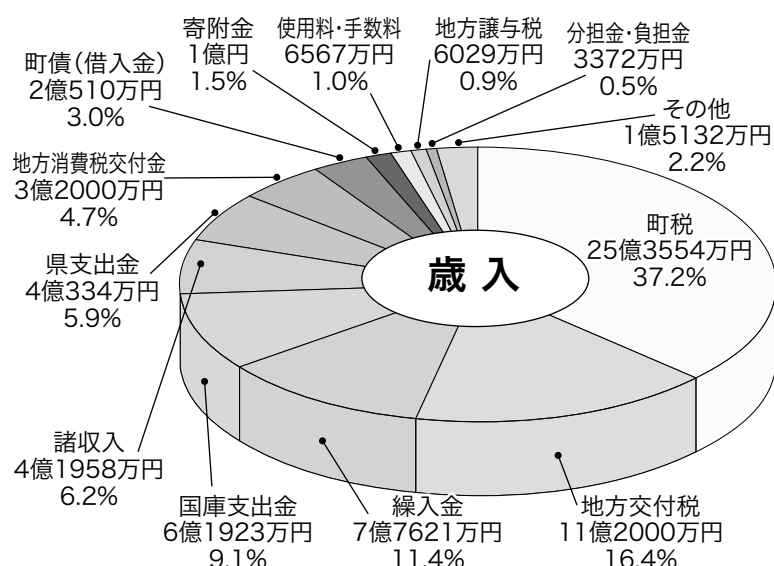
前年度に対して、法人町民税は同額、個人町民税は国の定額減税の影響に伴い4千万円の減額、固定資産税については、3年ごとの評価替えによる地価下落の反映に伴う固定資産税課税標準額の減額により、2500万円の減額を見込んだこと

から、町税全体では、前年度と比較し、6239万円の減を見込む。

幹的な機能に加え、子育て支援センターや図書館の機能を含み、新複合施設建設事業として、基本設計等に係る予算を計上し、建設に向けた準備を進めていく。また、がん患者へのアピランスケア用品の費用に対する助成や、小学校150周年記念事業補助金などの費用を計上した。

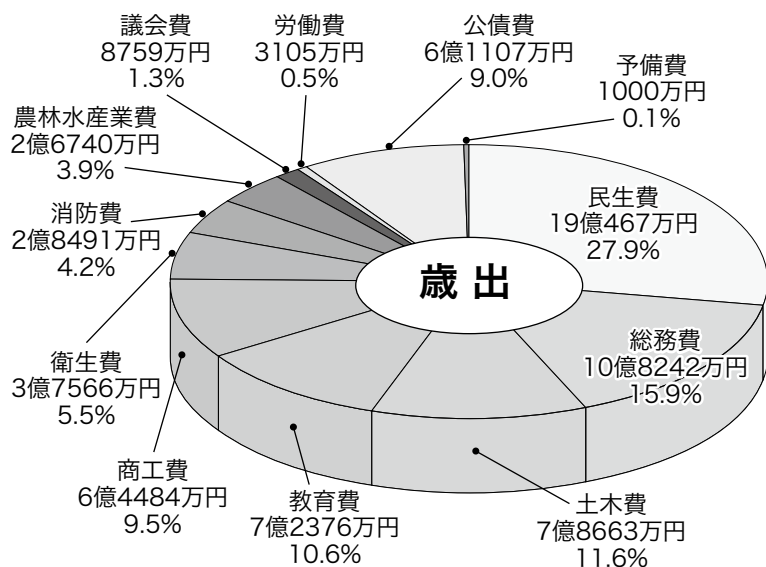
歳入

町税約25億円(前年度比2.4%減)



歳出

新たにがん患者へのアピランスケア用品の費用助成



令和6年度 予算 新複合施設基本設計、坂城テクノセンター



修繕が進む昭和橋

令和6年度 予算総額

特別会計
30億6601万円
(対前年度20.4%減)

公営企業会計
(下水道)
10億2070万円

会 計 名	予算総額	対前年度増減率
国民健康保険	13億5446万円	△5.7%
介護保険	14億2327万円	△1.3%
後期高齢者医療	2億8828万円	11.8%

会 計 名	予算総額	対前年度増減率
下水道事業	10億2070万円	—

国民健康保険

保健事業を推進するため、保険税収入を主な原資として県へ納める事業費納付金と、県からの交付金を原資に支払う医療費に対する保険給付費等。前年度比△5・7%、8247万円の減。

後期高齢者医療

被保険者から保険料を徴収し、制度運営主体である後期高齢者医療広域連合へ納付する。前年度比11・8%、3048万円の増。

第9期介護保険事業計画に基づき、保険給付と地域支援事業を実施する。前年度比△1・3%、1840万円の減。

介護保険

下水道事業

5年度末の面整備率は約96%であり、引き続き、点在する未整備地区の整備を進める。
また、6年度からは、総務省による公営企業会計適用への要請により、下水道事業特別会計から地方公営企業法に適用する公営企業会計へと移行する。



春の訪れ（ふるさと歴史館）

委員長報告

一般会計

総務産業・社会文教常任委員会では、付託された令和6年度一般会計予算案について、慎重に審査し、その結果を委員長が本会議で報告した。

総務産業常任委員会

災害用マンホール トイレ整備

委員長 大日向進也

歳入

問 地方交付税が増加した要因は。

答 国の予算総額が前年度比1・7%増額したことで、普通交付税の算定に関して、基準財政需要額の算定費目に子ども子育て費が創設されることにより増額を見込んでいます。

歳出

総務課

問 庁舎等改修工事の内容は。

答 町道拡幅に合わせ、役場前庭駐車場を整備するとともに、庁舎の高圧受電設備の老朽化による改修工事を予定している。

企画政策課

問 入札参加資格申請受付審査システムの内容と負担額は。

答 現在、自治体ごとに書面で行っている入札参加資格の受付審査を、県が開発したシステムを利用し、電子申請により受付審査を一本化することで事務の効率化と利便性の向上を図るものである。6年度は、参加34市町村が初期導入費用を負担し、坂城町は175万円の負担である。

問 まちづくり推進事業におけるシステム等導入委託とは。

答 書かない窓口、公共施設予約管理、観光資源・文化財デジタル化の3事

業に係るシステム導入経費であり、国のデジタル田園都市国家構想の交付金事業として現在申請している。

問 防災行政無線の非常電源は。

答 停電など、電力が途絶えた場合、戸別受信機については付属の乾電池から対応される。屋外スピーカーについては、自動的に内蔵された非常用バッテリーに切り替わり、72時間の運用が可能である。

商工農林課

問 松くい虫防除対策事業の予算額が例年より増加している理由は。

答 6年度は、例年実施している松くい虫防除対策に加え、昨年4月に発生した林野火災の延焼範囲内において、焼損したアカマツに多数の害虫が集まる状況が確認されていることから、周辺への松くい虫被害を拡大させ

ないために被害木の伐倒駆除を行う費用を計上している。

問 今後の農業施策をどのように進めていくのか。

答 農業者の高齢化、減少という課題に直面していることから、新たな担い手の確保を進めるとともに、農地の集約化など効率の良い生産を行える体制を整えていきたい。また、スマート農業については、町内の営農状況を考慮して推進していきたい。

建設課

問 道路新設改良一般事業について、A06号線(村上工区)整備の今後の計画は。

答 A06号線の施工については、5年度予算を繰越し、舗装工事を行い、6年度予算で終点までの区間に擁壁工事を実施する予定である。その後、国道バイパスに取り付ける交差点については、国と協議を行っていく。



今年度から電動アシスト付き自転車10台を導入予定

問 水道事業広域化について、今後の予定は。

答 水道事業広域化研究会にて、3年度から現在まで検討してきている。6年度の早期に、設立を予定している上田長野地域水道事業広域化協議会にて事業統合を含めた、より詳細な検討を行う予定である。町としては、災害時にも対応できるように送水管を千曲川右岸にも整備する二重化について要望している。

問 災害用マンホールトイレの小中学校への設置が終わるのはいつか。また、貯留型の選定理由は。

答 6年度の村上小学校から1年に1校ずつ施工し、9年度で完了予定である。貯留型マンホールトイレは、事前に貯水できるといった初動対応の優位さや維持管理の頻度、また、下水管路災害時には、ある程度貯留できるといった機能面を考慮し選定した。

社会文教常任委員会

村上義清公

没後450年記念事業

委員長 玉川清史

住民環境課

問 6年度のコンビニ交付の見込件数は。

答 年間約3千件、総発行件数のうち25%程度を見込んでいる。戸籍証明書、住民票、印鑑証明書、税務の所得証明書が発行できる。

問 町における地域猫活動状況は。

答 ボランティア団体である「ふくねこさかき」が、各地区の区長に協力を得て活動している。効果が大きく表れるまでには長期間の取り組みが必要だが、その途上である現段階においても効果が見えてきている。

問 今後の消防ポンプ操法大会開催の考えは。

答 坂城町・千曲市それぞれで大会を行い、上位大会への出場者を選出する現在の方式ではなく、埴科大会に一本化し、出場についても、分団ごとの要望に應える方向で、埴科消防協会で検討中である。ラッパ分団については、坂城町と千曲市が1年交代で県大会に出場する方式を検討している。

福祉健康課

問 成年後見支援センターの相談件数と周知は。

答 成年後見事業は町社会福祉協議会に委託している。1月末現在の相談件数は33件であり、町広報や社協だよりで周知

している。6年度からは、権利擁護が必要な人への住民サービス向上のため、普及啓発、市民後見人養成等に係る上田地域での取り組みに参加する予定であり、事業の一部を上田市社会福祉協議会へ委託する予定である。

問 寝具洗濯等サービス、訪問理美容サービスの対象者は。

答 要介護3～5の高齢者または重度障がい者で、利用を希望する登録者を対象としている。訪問理美容サービスは利用者の負担軽減を図るため、年間4枚交付する利用券の補助額を増額する。

問 不妊・不育治療費助成の状況は。

答 4年度は不妊治療費を13人に助成し、7人が妊娠された。5年度は現在のところ5人に助成し、うち3人が妊娠されている。

教育文化課

問 全国学力・学習状況調査の結果は。また、調査結果を踏まえた今後の方針は。

答 全体としては、全国・県の平均と比較して大きな差はない。数学では発展的な内容で弱い部分が見受けられる。学校では、この調査結果も踏まえ、引き続き、個別最適な学習と、グループで話し合う協同的学習の両立により、発展的な内容について互いに意見を出し合い、学びを深められるよう授業改善に取り組んでいる。

問 6年度の分館施設整備補助事業の予定は。

答 町横尾のエアコン設置工事、込山の空調・床修繕工事、北日名のトイレ・エアコン設置工事、新町のエアコン・給湯器設置工事、網掛の駐車場修繕工事に対し補助する予定である。

問 村上義清没後450年記念事業の内容は。

答 9月にふれあい大学習として砥石城親子トレッキングや10月の町文化祭にあわせ、信濃村上氏フォーラムとして講演会及びパネルディスカッションを計画している。また、信濃村上氏フォーラムの記念誌を発行する予定である。



村上十八将図
(坂本宿ふるさと歴史館所蔵)

委員長報告

各常任委員会では、付託された令和6年度の3特別会計予算案及び公営企業会計予算案について、慎重に審査し、その結果を委員長が本会議で報告した。

公営企業 会計

特別 会計

国民健康保険事業

社会文教常任委員長 玉川 清史

加入者数 約2600人

問 国民健康保険加入者世帯数と加入者数は。

答 2月末現在、1720世帯、加入者数は2558人である。

問 1人あたりの国民健康保険税の見込み額は。

答 11万5700円の見込みである。

問 国民健康保険1人あたりの医療費と県内の順位の推移は。

答 4年度の1人あたりの医療費は、41万3989円で県内の順位は高い方から15番目、3年度は、40万7233円で同じく高い方から15番目である。

問 医療費削減に向けた今後の施策は。

答 まずは健診を受けて

いただき、自分の健康状態を知っていただくことや、治療が必要な方には受診を進めるとともに、訪問指導を実施している。

また、今後も引き続き集団健診受診者に対して、健診結果報告会で健康に

関して意識していただく保健指導を行っていくことと、重症化予防事業として、高血圧・高血糖の方を対象とした学習会等を開催していく。

問 特定健診の受診率と県内順位は。

答 3年度は57・8%で高い方から18位、4年度は58・3%で21位である。

介護保険事業

社会文教常任委員長 玉川 清史

介護老人保健施設利用減

問 5年度の介護保険の認定申請件数は。

答 2月末現在で、新規申請が192件、更新申請が290件、区分変更の申請が135件で、合計617件である。

問 要支援者数と要介護認定者数は。

答 12月末時点で、要支援認定者205名、要介護認定者614名、合計819名である。

問 施設介護サービス給付費について、前年度と比較して2500万円減額した理由は。

答 急性期病院から回復期病棟への転院が増えたことにより、介護老人保健施設の利用が減少している。国の示す推計方法



介護予防体操（老人福祉センターにて）

を参考に、過去の実績を踏まえた予算計上としている。

一般会計と 特別会計の違いは？

一般会計とは、地方公共団体において町民のサービスの提供を始めとする行政運営の基本的な経費（福祉・教育・土木など）を計上している会計です。

一方で特別会計は、事業目的を限定し、特定の収入をもって特定の支出に充てるため、一般会計と区別して経理する必要がある場合に設けられる会計です。

坂城町では、6年度、国民健康保険、介護保険、後期高齢者医療の3会計があります。



後期高齢者医療事業

社会文教常任委員長 玉川 清史

被保険者数 約3100人

問 被保険者数と各負担割合の人数は。

答 1月末時点の被保険者数は、3118人で、窓口負担割合については3割負担が190人、2割負担が558人、1割負担が2370人である。

問 1人あたりの医療費と、県内順位は。

答 4年度の1人あたり医療費は、90万40円で、県内順位は高い方から14番目である。

問 保険料賦課の限度額

答 5年度における保険料賦課限度額は66万円となっている。保険料率等については、長野県後期高齢者医療広域連合において決定しており、令和



ケアマネジャースタッフの作業風景（町社会福祉協議会）

6・7年度は賦課限度額が80万円に改定されることとが示されている。

下水道事業会計

総務産業常任委員長 大日向 進也

全マンホールポンプ点検

問 受益者負担金について、6年度の新規件数と対象面積の見込みは。

答 新規は8件で、工場等も含むため、対象面積は1万9500㎡を見込んでいます。

問 6年度の工事予定は。

答 上平地区工場付近及び文化センター南側道路について、5年度に仮復旧した箇所の本復旧工事を行う。

問 管渠費の修繕費について、どこを修繕予定か。

答 町内全27箇所あるマンホールポンプについて、点検を行ったうえで必要な箇所の修繕を予定している。



マンホールポンプ制御盤

問 下水道保険の内容は。

答 下水道管路の管理瑕疵が原因で第三者に危害を及ぼした場合に対応するもので、保険金額は身体賠償について1名につき1億円、1事故につき3億円、財物賠償について1事故につき3千万円となっている。

公営企業会計とは？

国の要請を受け、6年度から、下水道事業特別会計を公営企業会計に変更しました。

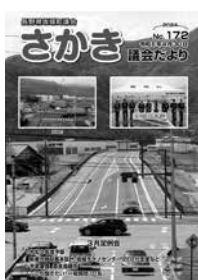
公営企業会計は、事業収入を主な財源として、独立採算の原則により特定の事業を経理する会計です。現金の収入支出のみを把握するこれまでの会計と異なり、その企業活動を正確に把握するため、複式簿記を採用しています。

下水道事業会計には、2つの財布があり、使用料収入や施設の維持管理費などに係る財布を収益的収支、下水道施設の整備や改修などに係る財布を資本的収支として区分しています。

3月25日（月）に、主要地方道坂城インター線（坂城IC入口交差点から町道A09号線間の400メートル）が開通した。

今回開通となった道路は、将来的に現在建設が進んでいる国道18号バイパスとつながる予定であり、町の重要な交通ネットワークが形成され、町内企業のさらなる発展や地域経済の活性化、移住定住の促進などが期待される。

（文：山城 峻一）



表紙

第1回定例会 議案審議

契約の承認

◆坂城町文化センター耐震補強及び大規模改修工事変更請負契約の締結

◆坂城町国民健康保険税条例の一部改正

う「定義」の一部を改正し、「日常生活の支援」に關して新たに盛り込む。

◆坂城町国民健康保険税条例の一部改正

◆坂城町介護保険条例の一部改正

国民保険税の税率を医療給付費分の資産割1・8%を1・0%に、介護納付金の資産割を1・0%から0・8%に引き下げるとともに、医療給付費分の所得割を6・

基準額としている第5段階の保険料を月額5千円から4900円に、年額では1200円の減額とし、所得段階は、現在の11段階から国の示す13段階に細分化を行い、基準所得額等についても国基

7%から6・75%に改める。改正にあたっては、基金を活用した町独自の激変緩和措置を講じるなかで、税負担を一定程度抑えた改正とする。

◆坂城町介護保険条例の一部改正

基準額としている第5段階の保険料を月額5千円から4900円に、年額では1200円の減額とし、所得段階は、現在の11段階から国の示す13段階に細分化を行い、基準所得額等についても国基

準に合わせ改正を行う。

◆坂城町文化センター条例の一部改正

耐震改修及び大規模改修工事により、これまでのボイラーによる暖房から、空調設備による冷暖房に切り替えることから、冷暖房使用料に關して規定するとともに、昨今の電気料金の変動等に対応できるよう、教育委員会が別に定める実費相当額とする。

条例改正

◆坂城町犯罪被害者等支援条例の一部改正

犯罪被害者等が早期かつ円滑に日常生活を安心して営むことができるよ

令和5年度一般会計補正予算(主なもの)

◆第8号(専決)補正額	7,070万円
歳出	
物価高による低所得の世帯及びその子育て世帯の支援として	
○物価高騰対応重点支援給付金給付事業に係る経費	5,125万円
○子育て世帯物価高騰対応重点支援給付金給付事業に係る経費	790万円
○子ども医療給付費	1,000万円
◆第9号補正額	▲1億4,551万円
歳入	
町税	1,800万円
地方消費税交付金	7,878万円
普通交付税	5,009万円
寄附金	1,560万円
歳出	
防災重点農業用ため池耐性評価委託	827万円
小学校教科書改訂に伴う教師用指導書	883万円
減債基金積立金	2,564万円
児童手当	▲1,801万円
新型コロナウイルス予防接種事業	▲4,651万円
A01号線道路改良事業	▲3,378万円

主に歳入、歳出全般にわたる事務事業の清算に伴う補正

人事

農業委員会委員

(敬称略)

選挙管理委員会委員及び同補充員

(敬称略)

◎選挙管理委員

石間 笑(上五明) 岩野 幸夫(金井)

宮下 佳明(上平) 荒井 洋子(中之条)

矢嶋 鋭二(四ツ屋) 中村 耕一(戌久保)

谷田邊 基夫(南日名) 滝澤 毅彦(上平)

柳沢 賢二(金井)

宮下 卓(入横尾)

柳澤 一男(御所沢)

青柳 裕(新地)

池田 邦雄(中之条)

滝沢 英俊(御所沢)

西澤 満善(北日名)

宮崎 光明(網掛)

山崎 貴勇(上五明)

宮入 健誠(網掛)

※任期は令和6年5月18日から3年間

◎同補充員

小島 繁男(小網)

手塚 秀樹(中之条)

山崎 裕夫(新地)

宮下 秀陣(横町)

※任期は令和6年4月1日から4年間

第1回定例会(3月)の審議結果

1 全会一致で議決した議案

(1) 専決処分

- ①令和5年度一般会計補正予算(第8号)

(2) 人事

- ①坂城町農業委員会委員の任命の同意(14件)
②坂城町選挙管理委員及び同補充員の選挙

(3) 契約

- ①令和5年度坂城町文化センター耐震補強及び大規模改修工事変更請負契約の締結

(4) 条例等

- ①長野広域連合規約の変更
②坂城町手数料条例の一部改正
③坂城町議会議員の請負の状況の公表に関する条例の制定
④地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例の制定
⑤指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準等の一部を改正する省令の公布に伴う関係条例の整備に関する条例の制定
⑥坂城町隣保館条例の一部改正
⑦坂城町犯罪被害者等支援条例の一部改正
⑧坂城町新型コロナウイルス感染症対策利子補給基金条例の一部改正
⑨坂城町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部改正

- ⑩坂城町国民健康保険税条例の一部改正

- ⑪坂城町介護保険条例の一部改正

- ⑫町営住宅等管理条例の一部改正

- ⑬坂城町文化センター条例の一部改正

- ⑭新型コロナウイルス感染症に係る坂城町商工業振興条例の特例に関する条例の廃止

(5) 令和6年度当初予算

- ①一般会計
②介護保険特別会計
③後期高齢者医療特別会計
④下水道事業会計

(6) 令和5年度補正予算

- ①一般会計(第9号)
②国民健康保険特別会計(第3号)
③下水道事業特別会計(第5号)
④介護保険特別会計(第3号)
⑤後期高齢者医療特別会計(第2号)

(7) その他

- ①和解及び損害賠償額の決定

(8) 意見書

- ①パレスチナ自治区ガザ地区における即時停戦及び人質の即時解放を求める意見書

2 賛否が分かれた議案

(○は賛成、×は反対)

(議員氏名)		中嶋	塚田	水出	宮入	中村	星	玉川	山城	柊津	大日向	朝倉	大森	滝沢
(議案名)		登	舞	康成	健誠	忠靖	哲夫	清史	峻一	明子	進也	国勝	茂彦	幸映
令和6年度 当初予算	国民健康保険特別会計	○	○	○ 賛成 討論	○	○	○	×	○	○	○	○	×	議長職 反対 討論

3 全会一致で否決された議案……なし

「パレスチナ自治区ガザ地区における即時停戦及び人質の即時解放を求める意見書」を全会一致で可決

坂城町議会は3月21日の本会議において、議員から提出された意見書について全会一致で可決し、国会等へ意見書を提出した。

パレスチナ自治区ガザ地区において、イスラエル軍とパレスチナのイスラム組織ハマスとの軍事衝突が続いている。

令和5年11月15日、国連安全保障理事会は、ガザ地区の子どもの人道状況を改善するための戦闘休止などを求める決議を採択し、12月12日には国連総会の緊急特別会合において、「即時の人道的停戦」を求める決議を、日本を含む国連加盟国の約8割にあたる153カ国の賛成多数で採択した。

これは、「一般市民の危機的状況を改善しなければならない」と国際社会の意思が表明されたものである。

いかなる場合においても人間の生命と尊厳を守るべきとの国際人道法の理念を尊重し、この戦闘により一般市民が直面している人道上的危機的な状況を改善するために事態の早期鎮静化が求められている。

よって、坂城町議会は、全世界の平和を願い、イスラエルとハマスの双方をはじめとするすべての当事者、国会、日本政府、国際社会に対し、一刻も早い事態の解決に向けて、次の事項を実現するよう強く求める。

- 1 即時停戦及び人質を即時解放すること
- 2 国際法及び国際人道法を遵守すること
- 3 物資の供給等により人道上的危機的状況の速やかな改善を図ること

令和6年3月21日 坂城町議会

ここが聞きたい！ 一般質問

(一般質問の文章は、質問者の責任で作成しています)

農地保全

耕作放棄地対策は

荒廃農地の解消を推進

問 住宅地周辺の耕作放棄地の状況をどのように把握、認識しているか。
町長 毎年8月、住宅地周辺を含む町内全域の農地を対象に農地パトロールを行い、農地の現状を一筆ごとに目視による確認を行っている。
また、後継者不足や農業に携わったことのない土地所有者、土地持ち非

問 町民から苦情や要望を受けた際、農地の所有者に対して町の対応は。
町長 町では、現地を確認したうえで、所有者に通知し、適正な管理をお願いしている。
また、ご自身での管理が難しいと思われる方には、シルバー人材センターや民間業者などへ草刈り作業を委託できることも重ねてお知らせしている。



星 哲夫 議員

問 今後の取り組みは。
町長 新たな担い手の確保や育成を推進するため、県やJAと連携し、相談会の開催や各種補助制度、研修制度の案内を行っていく。また、「荒廃農地等再生利用補助事業」の活用を案内するなど、農地の有効利用と荒廃農地の解消を推進していく。



耕作放棄地の解消を

質問項目

星 哲 夫 議員 10 ページ

- ① 耕作放棄地対策について
- ② 空家対策について
- ③ ゴミの出し方について

玉 川 清 史 議員 11 ページ

- ① 子育て支援について
- ② 犯罪被害者支援について
- ③ 道路の安全対策について
- ④ 学校での安全対策について

水 出 康 成 議員 11 ページ

- ① 防災計画について
- ② 移住・定住施策について

山 城 峻 一 議員 12 ページ

- ① 犯罪被害者支援の広報・啓発について
- ② 子ども・子育て支援事業計画について

塚 田 舞 議員 12 ページ

- ① 健康寿命の延伸について
- ② 持続可能な町づくりについて

中 村 忠 靖 議員 13 ページ

- ① 防災・減災対策について
- ② 農地の有効活用について
- ③ 坂城駅周辺の活性化について

中 嶋 登 議員 13 ページ

- ① 胃がんの原因ピロリ菌について
- ② ふるさと納税について

祢 津 明 子 議員 14 ページ

- ① 防災・減災について
- ② ハラスメントについて

大 森 茂 彦 議員 14 ページ

- ① 子育て支援について
- ② 町の公共交通のあり方は
- ③ 行政と町民との協働について

宮 入 健 誠 議員 15 ページ

- ① 地震災害への対応について
- ② 空家対策について

子ども医療費

完全無料化を

制度持続も含め検討する



玉川 清史 議員

問 窓口負担のレセプト代1回500円を助成する考えは。

福祉健康課長 6年度当初予算ベースで試算する

と、レセプト代の総額は1260万円となる。制度を持続していくには、窓口負担もひとつの方法として踏まえつつ、検討していく。

問 犯罪被害者支援の充実を

被害者に対して、支援施策の説明を迅速かつ

的確に行うことが重要だが町の考えは。

町長 4月から新たに日常生活支援を行えるよう、犯罪被害者等支援条例に、日常生活支援を明記した条項などを追加した条例案を提出している。

支援制度の説明については、警察、法テラス、県犯罪被害者支援センター等に協力を依頼する。

町職員については、関係機関が実施する研修会や勉強会への積極的な参加を促し、県などのハンドブックや町作成の対応マニュアルを活用し、適切で迅速な対応に努める。



子ども医療費完全無料化を

策定推進を

支援体制づくりに努める



水出 康成 議員

地区防災計画

問 大規模自然災害の発生を通じ、自助、共助に基

づく地域防災力の向上が課題であり、自主防災活動が重要とされている。

災害対策基本法の改定に合わせ、地区防災計画制度が平成26年4月に施行された。地域のさらなる防災力向上のため、地

区防災計画の策定の推進が行政には求められる。町の考えは。

町長 地区防災計画を

策定・実施することは、地域の自助、共助の意識を高め、地域防災力の向上や自主防災活動の促進にとって大変有効であるが、当町の各地区では、あまり策定が進んでいない。防災説明会や町の総合防災訓練、地区防災マップ作成支援などを継続的に実施するとともに、支援できる体制づく

りに努めていく。

移住定住

問 人口減少抑制策として、UIJターン者が坂城町を選択しやすい条件などを整備し、移住定住を促進する必要があるが町の考えは。

企画政策課長 町内における就業機会の拡大や多面的な取組を積極的に発信し、人口の流失抑制と流入促進を図っていく。



災害対策現地本部（令和5年坂城町総合防災訓練より）

犯罪被害者

小規模団体向けの研修を

関係機関と連携を図る



山城 峻一 議員

を育む町民集会」において、犯罪被害者のご遺族の方の講演会が実施された。参加者から寄せられた感想は。また、この集会の参加人数は。

企画政策課長 アンケートには「当事者の非常につらい思いの中での発言は、心に深く残った」今年



人権を尊重し豊かな心を育む町民集会

問 昨年12月に開催した「人権を尊重し豊かな心

日の講演から、自分に何かできることがあるのか、考える機会になった」などの意見や感想が寄せられている。また、集会の参加者は75名である。

問 区長や民生委員、町職員など、小規模グループ・団体を対象に「犯罪被害者への理解」や「犯罪被害者への支援」などについて研修会を開催したかどうか。

企画政策課長 それぞれの団体のスケジュールがあるため十分な調整が必要である。毎年、犯罪被害者週間と人権週間に合わせて開催している「人権を尊重し豊かな心を育む町民集会」について、人権学習の機会として個別に案内しており、町職員にも町民集会について周知している。

今後引き続き、関係機関・団体等と連携を図りながら、犯罪被害者も含めた人権意識の高揚を図っていききたい。

新たな取り組みは

Z E B化を先導的に推進する

ゼロカーボン



塚田 舞 議員

問 テクノセンターZ E B化事業の目的は。

町長 「ものづくりのまち さかき」の中核施設であるテクノセンターでZ E B化を実践し、その実証データやノウハウを町内企業と共有し、企業も含めた地域全体のゼロ

カーボン化を先導的に推進するためである。

問 期待される効果は。

町長 一義的には、光熱費とCO₂排出量の大幅削減が見込まれるが、建物単体でのCO₂削減効果に留まらず、企業を含めた地域全体への脱炭素意識の浸透と波及、企業のゼロカーボン化の実践支援による地域全体のゼロカーボン化である。町としても「ものづくりのまちのゼロカーボン化」に向かうフラッグシップ

として、地域全体を盛り上げていく。

問 今後の取り組みは。

町長 CO₂排出量の抑制と同時に、吸収量を高めることで2050年までに排出量の実質ゼロを目指し、国・県の動向や社会情勢などを的確に捉えた取組の強化を図っていく。また、町内の民間事業所も含めた脱炭素社会を目指す機運が高まるなか、継続してゼロカーボンにつながる多面的な取組の情報を伝えていく。



開館から30周年を迎える坂城テクノセンター

駅周辺活性化

中心市街地街並み整備は

賑わいの創出や活性化を推進



中村 忠靖 議員

問 意見交換会の内容と活性化に向けた考えは。

商工農林課長 2月の意見交換会では、地域の交流の場の創出やイベント、防災面での活用などについて意見が出された。



取り壊された旧兒玉邸（鉄の展示館北側）

今後は賑わいによる波及効果で、地域経済の活性化につなげられるよう、活用方法を検討していきたい。

問 坂城駅周辺のイベント開催と町内各施設との連携の状況は。

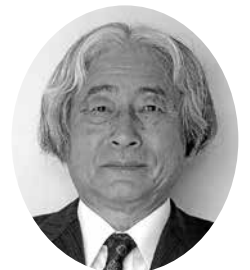
商工農林課長 昨年5月開催の「坂城駅前葡萄酒祭り」と、同時期開催の「第18回ばら祭り」のこのコラボレーションにより、ワインとばらの両方を楽しむため、駅とばら祭りを会場を無料シャトルバスで結んだ。また、ばら祭り期間中、鉄の展示館・び

んぐし湯さん館の入場割引券の配布とスタンプラリーを実施し、町内の各施設や店舗との連携に取り組み、相乗効果を高めることができた。

防災・減災対策について

問 毎年実施の町総合防災訓練について、他の季節や夜間実施の考えは。

町長 町総合防災訓練において、様々な場面を想定した訓練内容を研究し、より実効性の高い訓練にしていきたい。



中嶋 登 議員

問 井戸水を飲んだことがある50歳以上の約9割の方にはピロリ菌がいる、高齢に伴い胃がんになると言われている。国の医療費を抑制するためにも、町の集団健診でピロリ菌検査を行うべきであるが、町の考えは。

保健センター所長 ピロリ菌検査を項目に加えるには課題が多く難しいが、胃がんの早期発見推進のため、令和6年度から胃内視鏡検査を実施する。50歳以上で実施年度に偶数年齢となる方を対象とする。

ピロリ菌

集団健診の検査項目に

慎重に検討していく

問 千曲医師会のパンフレットには「千曲市・坂城町の中高校生は4千人の友達がいいます。そのうち、約200人がピロリ菌に感染していて、そのうちの15%の約30人が大人になつて胃がんにかかり、そのうちの12人が胃がんを命を落とす」と書かれている。小中学生のうちに集団健診を行うべきであるが、町の考えは。

保健センター所長 松本市は平成30年から中学2年生を対象にピロリ菌検査を行っている。一次検査は血清抗体検査である。実際には陰性であるのに、かなりの方が陽性と判定されてしまう。そのようなことから、今後国・県等の動向を見極めながら小中学生の集団健診は、慎重に検討する。

千曲医師会より中学生・高校生の皆さまへ

皆さん、胃がんという病気を知っていますか。とても怖い病気の一つです。

胃がんの原因の主な原因は

千曲市・坂城町の中高校生約4,000人のうち約200人がピロリ菌に感染している可能性が...?





カスハラ

対策の周知の考えは

町広報誌などで周知



荻津 明子 議員

問 カスタマーハラスメント（カスハラ）が社会問題になっている。厚生労働省が作成した「カスタマーハラスメント対策企業マニュアル」を活用し、エッセンシャルワーカーや個人事業主に周知していくことが重要だと考えるが町の考えは。

商工農林課長 カスタマーハラスメントとは、顧客からの暴行、脅迫、ひどい暴言、不当な要求等の著しい迷惑行為をいう。従業員に過度な精神的ストレスを感じさせるとともに、通常の業務に支障が出るケースが見られるなど、企業や組織に金銭、時間、精神的苦痛など、重大な損失を招くことが想定され、町としても課題であると認識している。

厚生労働省が作成したマニュアルやその概要版であるリーフレットには、カスタマーハラスメントを想定した事前の準備、実際に起こった際の対応など、基本的な枠組みが記載されている。これらを活用し、事業主等に対して、町広報誌や町ホームページ等において周知していく。

問 学習会等の開催の考えは。

商工農林課長 長野労働局や町商工会等、関係機関と連携して今後検討していく。

地域交通

デマンド交通の見通しは

循環バスとの両立を考えている



大森 茂彦 議員

1か月当たり265名で前年度比30名、15%増である。

問 デマンド交通と循環バスは共存できるか。

建設課長 デマンド交通が浸透するにつれ、循環バスとの併用で大変便利になったとの意見がある。

る。相乗効果が出ているので、両立できると考えている。

問 公共交通の利用者増に向け、併用の方法を例示することや、新複合施設建設に合わせて循環バスを小型化し半周まわりにして、今よりもきめ細やかな運行はできないか。

建設課長 併用の方法の例示や循環バスの小型化、運行ルートなど、デマンド交通の利用状況をみて検討したい。

問 公共交通は、住民がどこに住んでも誰にも制限されない居住権や移動する権利を保障する重要な役割がある。町は循環バスに加え、新たにデマンド交通の実証実験を行っているが、この間の登録者数と利用状況は。

建設課長 デマンド交通

の登録者数は4年度末が229名、6年1月末で278名、プラス49名で21%増である。利用者数は4年度末が2793名で1か月当たり平均利用者数230名に対し、6年1月末は2641名、



循環バス（上）とデマンド交通（下）

地震災害

備蓄品の状況は

安全・衛生面を考慮し確保



宮入 健誠 議員

問 防災準備品の内容は。

住民環境課長 備品庫の設置場所は、坂城地区の



備蓄品倉庫（防災センター）

防災センターと村上地区第10分団詰所横の防災備蓄庫、南条地区の第3分団詰所横の防災備蓄庫、中之条地区の文化センターの4か所にあり、保存食をはじめ、ブルーシート、毛布、ポータブルトイレ、排せつ物凝固剤、段ボールベット、段ボール間仕切りなどの町民の安全面・衛生面が確

保できる備品を備蓄している。

また、保存食等における備蓄の方針として、人口1万5千人のうち、その1割にあたる、1500人分の防災準備品を常時確保することとしており、食料については特に重視し、1500人の2日分の食料を確保している。

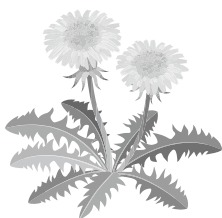
空家対策

問 専門知識の活用と職員の負担軽減を図るため、官民連携の考えは。

町長 現在、町空家等対策協議会の委員として、司法書士、土地家屋調査士、宅地建物取引士、建築士の参画により、専門の立場で空家対策の協力を得ている。また、町主催の空家対策講座、空家対策セミナー等も実施しているが、今後はノウハウを持つ民間企業、NPO法人と連携した空家の解消、利活用の方策を研究していきたい。

議 会 日 誌

(主なもの)



議会事務局人事異動

4月1日付で、北村一朗事務局長が商工農林課長として異動しました。北村局長には4年間、議会運営等にご苦労いただきました。後任として、大橋勉会計管理者を会計室から迎えました。新事務局長のご活躍を期待します。

1月	5・11・16日	議会報編集委員会	2月	16日	議会全員協議会 千曲衛生施設組合議会定例会
	18日	上田地域市町村議会議員研修会		20日	長野県町村議会議長会定期総会 葛尾組合議会定例会
	19日	議会全員協議会		21日	議会運営委員会
	22日	町都市計画審議会		22・28日	上田地域広域連合議会定例会
	24～25日	総務産業常任委員会 (閉会中の調査)		26日	町例月現金出納検査 町都市計画審議会
	26日	町例月現金出納検査		27日	町障害者計画等策定委員会 中心市街地街並み整備のための 意見交換会
	29日	社会文教常任委員会 (閉会中の調査)		29日～3月21日	3月議会定例会
	30日	上田地域広域連合議会代表者会	3月	7日	さかきテクノセンター理事会
	31日	新複合施設建設委員会		18・26日	議会報編集委員会
2月	1日	議会運営委員会		25日	町例月現金出納検査 坂城インター線道路整備事業開通式
	5日	町国民健康保険運営協議会		26日	町土地開発公社理事会
	6日	六ヶ郷用水組合議会定例会 町介護保険運営協議会		27日	さかきテクノセンター評議員会
	7日	さかきテクノセンター評議員会 新春経済講演会		28日	町都市計画審議会
	8～9日	葛尾組合議会視察研修		29日	新複合施設建設委員会
	13日	町議員研修会			
	14日	千曲坂城消防組合議会定例会			
	15日	長野広域連合議会定例会			

楽市白河とスマートシティAiCT

総務産業常任委員会



スマートシティAiCTにて

現在、JR白河駅待合室を改装した「えきかふぇshirakawa」と、駅周辺に歴史的建造物を含む既存施設を生かした「楽蔵（らくくら）」をオープンさせている。

総務産業常任委員会は1月24日（水）に福島県白河市の楽市白河、25日（木）に会津若松市のスマートシティAiCT（アイクト）を視察した。楽市白河は、平成12年に市街地の活性化を目的としてスタートしたが、数年間事業計画が明確でなかったことやまちづくりの専門家が不足していたことなどがあり、事業が思うようにいかない時期があったとのこと。

その後、明確な役割分担を作り、意志決定を行いやすくするための組織構造を基にまちづくりを推進しているという話であった。

そのほかにも中心市街地市民交流センターの指定管理や賃貸マンションの管理も行っている。

まちづくりをしていくうえで行政、商工会議所、まちづくり会社（楽市白河）などが、それぞれ得意分野を活かすことや責任の明確化、そして有意義なコミュニケーションがいかんに大事であるかを白河市の事例を通じて、まちづくりの可能性を感じることができた。

当施設は、「若年層の地元定着や地域活力の維持発展を目指す」をテーマに市が官民連携によって整備され、地元企業や大手企業、約30社が入居し、デジタル化の先進地となっている。

施設ができたことにより、雇用の場の創出や若者の地元定着などが期待されている。

今回の視察を通じ、AiCTは今後の私たちの生活において大きな可能性を秘めている施設であると感じた。

（山城 峻一）

旧久保家と給食センター

社会文教常任委員会



旧久保家住宅で学芸員の説明を聞く

社会文教常任委員会は1月29日（月）に、上平地区の「旧久保家」住宅施設を視察した。学芸員から、古民家としてのつくりや歴史的価値などの説明を受けた。

古民家の構造として目にとまる大黒柱、梁、桁が迫力を持って我々を向かい入れた。また、床の間の違棚にある筆返し、付書院の落とし掛け裏の壁未仕上げなど、当時の家主の栄華が伺える。古民家として専門家の説明を要した見学ツアーができる構造はしているようだ。

現在は、清掃や片付け

を行っているが、今後、古民家ブームを活用した地域交流の場など、利活用を期待する。

その後、「坂城町食育・学校給食センター」を視察し、給食の試食を行った。給食センター所長より、センター内のレイアウトを含め、衛生面の安全性確保について、魚肉動線、野菜動線、調理、配送区域、洗浄、回収区域をエリア分けしているとの説明を受けた。

食材は、地元産を優先し、県内産、国産の順に配慮した仕入れを行っている。食材のトレーサビリティの問い合わせがあれば、説明できるとのことである。栄養教諭の説明では、必要なエネルギー、栄養素を確保し安全でおいしく、興味ある献立となるための工夫をされていることがわかった。

その日の献立は、ナン、牛乳、野菜たっぷりスープ、ドライカレー、フルーツポンチであった。皆で大変おいしくいただきました。

（水出 康成）

坂城町の未来を考える

坂城中3年生による 模擬議会を開催

1月19日(金)、役場4階の議場で、坂城中学校3年生による模擬議会が開かれた。

滝沢議長の議事進行のもと、6人の生徒が町の施策について質問し、山村町長ほか町の担当課長が答弁するという実際の町議会と同じ形式で行われた。

中学校では、3年間をかけて総合的な学習の環境で、授業や職場体験など多方面から町の第6次長期総合計画について学



び、今後のまちづくりについて、生徒が直接質問を行った。
緊張したなかでも、「坂城インター線の延伸について」「高齢者が安心して暮らせるまちづくり

」「自分たちの知らないところで多くの方が町を支えてくれていることがわかった」「坂城町の強みや良さが発見できた」などのほか、3年後に選挙権を持つことにもふれ、「ひとりの有権者として、自立していきたい」と政治や行政に関心を持つ姿が見られた。



研 修 報 告

町議会主催の議員研修会を開催 「議会基本条例について」

講 師 新潟県立大学国際地域学部准教授 田口 一博 氏

方とは」を踏まえたうえでの議会基本条例制定を考える研修を行った。

研修会の中で講師からは、条例等で枠を作り活動の場を決めてしまうのではなく、まずは今ある環境を最大限に生かし、議員各々が現場の熱を感じ議論する場を構築することが望ましいとの話が

あった。坂城町においては自治体規模として議会と有権者の距離は非常に近く、お互いの顔を見て対話が可能である。さらに、自治体の規模によつてはこのような条例が足かせとなり、本来実行されるべき事案に対し、踏み込めなくなってしまうことが多々発生してしまう可能性を指摘された。

また、議会基本条例を策定した後の維持



管理や改訂を行っていくことは困難であり、法規について明るい人材の確保が常になされるのか、自治体の現状に即しているかとの判断についてなど、課題は多い。

まずは、議員一人ひとりが坂城町の実情をつぶさに知り、議会の場で情報の共有と提示を行い、議論を行うことが最重要課題と考える。

(大日向 進也)

わがまちのアイドル 第3回

＝ 坂城の子は坂城で育てる ＝

坂城町で生まれたお子さんをご紹介します。



～名前の由来は～

しなやかで強く、柔軟性のある子になってほしいと、名付けてくれました。



成澤 ^{さな} 紗那 ちゃん(1才2か月:旭ヶ丘、写真:左)
お兄ちゃんの快くんと一緒に

～好きな絵本は～

「いないいないばあ」が大好きで、本をめくるときに「ばあ～」と声を出しながら見るのが、楽しいの。

～好きな離乳食は～

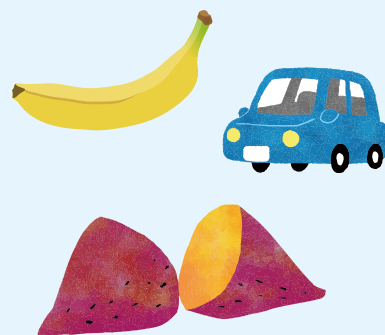
おいもとバナナが大好き。おいもを食べ終わると、もっと食べたくて泣いちゃいます。

～好きな遊びは～

お気に入りの青い車を、いつも手で走らせています。

～坂城町でお気に入りの場所は～

びんぐし公園の芝生。
お兄ちゃんと追いかけてっこをして遊ぶのが大好き。
これからもいろいろな場所に出かけたいな。



～パパママからの一言～

生まれてきてくれてありがとう！
1歳を過ぎてから上手に歩けるようになり、兄妹で一緒に手をつないで歩いたり、遊べるようになって、成長を感じています。
これからもたくさん食べて、すくすく大きくなってね。

発行責任者 議長
議会報編集委員会

委員長
副委員長
委員

滝沢 幸映
中嶋 登
山城 峻一
中村 忠靖
水出 康成
塚田 舞

世界では、これまで数えられないほどの争いや暴力行為が起きました。残念なことに、それは今でもなくなることはありません。SDGs 16番目の目標「平和と公平をすべての人に」では、あらゆる争い事をなくし、その被害者となる人を減らすことを課題としています。

日本では、終戦を迎えてから、75年以上戦争は起きていません。日本に住んでいると戦争やテロはどこか遠い存在のように思えるかもしれませんが、しかし、世界では現在も耳を塞ぎたくなるような出来事が起こっています。

遠い国のことでも、自分には関係のないことでも、そこで起きている悲惨な出来事について知り、考えることが、今私たちにできることではないでしょうか。

(塚田 舞)

平和